

全国へ向けてアピールしよう

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 田中 宏



新型コロナウイルス第1波が収束し、想定よりも早くに第2波が到来。緊急事態宣言が発令された。当初は夏くらいになればある程度落ち着くのでは、と考えていたがその考えは甘かった。

「また元の生活に戻れば・・・」という希望的観測であるが“新たな生活スタイルに自分たちが変わらなければならないのではないか”と思わせる、世界的未曾有のパンデミックである。一番の問題は特効薬やワクチンが存在しない恐怖であり、これが市民の大きなストレスになっている。ワクチンが開発され、国民に広く行き渡れば、少しは解消すると思うが、最近、その兆しは見えてきたようである。

一時は技師会も全く集まることもできず、会務が休止してしまった。しかし、理事会などはオンライン技術を利用して、正常に稼働し始めた。セミナーも多少の課題はあるものの稼働し始めている。今回、セミナーをオンラインで開催して分かったことは、他県からの参加者が一定数存在するという事実だ。これは、その現場に行かなくても参加できるオンライン最大の利点である。広報の仕方によってこれまで以上に全国の多くの方に参加していただくことが可能だと分かった。

「最も強い者が生き延びるのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることができるのは、変化に最も適応した者

である」ダーウィンの進化論

いつの時代も常に変化は存在する。しかし、今回の変化は短期間で大きく適応しなければ生き残れないと感じている。そのために技師会は変わります。もちろん、会員の皆さまにも変わっていただきますようお願い申し上げます。

医療者対象のセミナーなどは比較的变化可能だが、一方で、公益事業の中で中学高校を対象とした「放射線特別授業」「3DWS人体解剖学体験」さらには一般市民を対象とした事業をどのように進めていくかなど課題は残されている。

本会は診療放射線技師のためだけに事業を行っているのではなく、「埼玉県地域保健医療の向上及び県民の健康の保持増進に寄与することを目的としている」（定款第3条）。つまり、診療放射線技師の職業倫理の高揚と診療放射線学の向上は手段であり、目的ではない。

本会は変わります。そして全国へアピールしていきます。